令和３年度第２回　豊川市子ども・子育て会議　会議録（要約）

令和３年１２月２４日（金曜日）
午後１時３０分～午後２時３０分
於：豊川市中央図書館　集会室

１　あいさつ

白垣会長によるあいさつ
（略）

２　議事

⑴ 令和４年度教育・保育施設入所申込状況について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・５歳児が少ないという説明だったが数字を教えてください。

（事務局）令和３年４月１日現在で、５歳児が 1,715 人、４歳児が 1,612 人となっており、今の４歳児が少ないので来年度の５歳児が少なくなる見込み。

・３歳児はどうか、今の４歳児と５歳児が突出して低いということか。

（事務局）３歳児が 1,552 人となっている。

・来年度の４歳児もさらに今の４歳児、５歳児より少ないということだが、先ほどの説明だと来年度の４歳児がマイナス６とか 25 とか、５歳児がマイナス 29 とか 76 とかの説明だと合わないのでは。

（事務局）就学前児童数全体でいうとそういう傾向があるということで、1号認定の幼稚園を利用したり、２号・３号の保育園等を利用したりするのは、それがダイレクトに影響するのではなく社会情勢の変化等により保護者の就労が増えれば施設の利用も増えてくるので、おっしゃる通りそれだけが理由ではなく、その傾向があるということで説明したもの。
補足をすると、各年齢で増えたり減ったりするのはお子さんの数で変わってきてしまうので、それを１年毎で見てもなかなか分かり辛いが、この 10 年くらいの傾向で見ると、だいたい 100 人の子どもが 85 人くらいになっているというイメージで捉えてもらえば分かり易い。15％くらい減っているというのが現状。だから、施設がそんなに変わらないが保育園の数が変わらないということは、３・４・５歳を受け入れるキャパは変わらないがその数が減ってくるということで、今後、考えなければいけない。ただし、３歳未満児の申込は変わっていないということは、需要が高まっていることが明らかと言える。

・「考えなければいけない」というところは、施設はそのままだが職員が減るとかそういうことか。

（事務局）職員については、例えば４歳児・５歳児が 30 人減ると１人の先生のクラス分が減る理屈になるが、０歳児が新たに 30 人入りたいということになると、先生が非常勤職員も必要になるので、今は職員の数も増やしている状況。

⑵ 令和４年度放課後児童クラブ入所申込状況について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・豊小学校の申込が昨年度との対比で３人増になっていて、それに対して計画の確保量が 72 人から 108 人と上がっているが、この根拠は何か。

（事務局）計画数値の 108 人については、確保方策の中でクラブの拡張や増設を見込んだ数値。資料３のＣの数値のとおり計画では 82 人のニーズがあると見込み、その人数を受け入れるための確保量として見込んだ数値であるが、実際には R4 年度の申込みが 75 人という状況であったため、すぐには増設等の必要がない状況。

⑶ 令和３年度子ども・子育て支援事業の実施状況について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

・子育て応援金のその他において説明のあった動画について、さっそく視聴させていただいた。支援センターの先生方が楽しそうに歌を歌ってくれていたが、この視聴案内を送るときにそれと一緒に子育て支援に関する情報などを一緒に同封して送ったりすることはあるのか。

（事務局）今のところはこのカード以外は同封してない。ご要望があれば考えて行きたいと思うが、重量によって郵送料が変動する関係もあるので、その点を考慮しながら検討して行きたい。

・その郵送の時期だが、１歳の誕生日を迎えるお子さんに１歳の誕生日のどのくらいの時期に案内がされるのか。１歳を迎える子の親から、いつ頃もらえるのかとの問い合わせを受けて困ったことがあるので教えてほしい。

（事務局）誕生月の中旬で概ね２０日頃に郵送し、申請はその翌月までできるようにしている。そしてその翌月末に支給している。

・子育て応援金について、３年間という期間が限定されている趣旨は。また、申請率が 100％になっていないということで、未申請の方への対応をどうしているか。

（事務局）３年というのは市長の現任期で区切っている。また、未申請の方への再度の案内は行っていないが、申請を翌月末まで受け、なるべく申請いただけるよう申請期限を緩めて対応している。

・児童発達相談センターについて、こういった事業が豊川市でより充実していくといいと思う。お子さんが大きくなって小学校に入り２～３年目までは気付かず４～５年目になって他とは違うなと気付くと、とても厳しくなってくるので、できるだけ幼少期からこうところを見付けて相応しい接し方ができていくといいと思う。

・児童発達相談センターの事業内容「地域支援」の中で、保護者を対象として研修（ペアレントトレーニング）と支援者を対象とした研修（ティーチャーズトレーニング）があるが、これは正規の職員を対象としているのか。臨時やパート職員を対象としていたら良いと思うが。

（事務局）ペアレントトレーニングは保護者を対象としているが、支援者向けのティーチャーズトレーニングは、保育士向けに行っているが、基本的には各園でこの研修で学んでいただいて、それを研修を受けた方が園で普及するという内容で行っている。なので１回にロールプレイングや宿題がある。研修で学んだことを園で実践し、それがどうだったかを持ち帰るというような研修になるので、それを園で普及していただける先生を募集している。なので、１回に受講できる先生が６～

７人であり、１０人１５人と大勢受け入れられる状況でない。ただ、そういった参加希望の声も聞いているので、来年度以降、どういった方でも受けられる講演会、動画配信などを検討している。

・子ども家庭総合総合支援拠点については、子育て支援課の窓口前に親子交流スペースが設置されるとのことだが、この拠点とは子育て支援課ということか。

（事務局）拠点というのはあくまで機能を設けるということ。物理的には子育て支援課ということになる。親子交流スペースは授乳室の隣に設置し、１月の１３日にお披露目を行った。

３　その他

（事務局より）

・子育て家庭を応援するため、子育て支援課とコカ・コーラボトラーズジャパンで子育て応援に関する協定を締結し、子育て応援自販機を設置した。この自販機で得られた財源を子育て支援施策、子どもの貧困対策に活用する。自販機はプリオ５階のつどいの広場前と交通児童遊園玄関横の２か所に設置した。今後、設置可能な場所を検討して拡充していきたい。

・令和３年度子育て世帯等臨時特別支援事業については、国で話題となった１０万円一括給付の件だが、豊川市では対象は約３万人を見込む。支給は積極支給が約８割だが１２月２７日（月）に振り込みの準備を整えている。新生児については１か月後となる。申請支給の場合は同じく１２月２７日に申請書を郵送し、受付の後、１月末から支給を開始する予定。

・次回は３月２８日（月）を予定。